

## 活動実績

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
  - ・緑化活動  
南岸：6/18(土), 8/20(土), 10/8(土)  
北岸：7/16(土), 9/10(土), 11/26(土)
  - 水辺の環境学習教材体験  
・アカンミキッズクラブ：8/1(月)
  - サガリバナ観賞会  
・国場集落 6/24(金)  
・末吉公園 7/10, 11(日・月)
  - 水辺講座  
・夏の自然観察とオリジナル標本箱づくり：8/9(火)
  - 出前講座  
・ノイズ・バリュー社「地域ブランド構築プロデューサー育成スクール『コネク

## 活動予定

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
  - ・緑化活動：南岸 12/10(土)、以降、北岸 or 南岸で毎月開催予定
  - 団体受入

## アルバム： 新しい植栽植物

これまで植栽してきたサガリバナ、サキシマスオウノキ、ハマオモト、ツワブキ、ハマゴウ、キダチハマグルマ、グンバイヒルガオ等の植物に加えて、今年からタブノキ、アキノワスレグサ（クワンソウ）が仲間入りした。

### タブノキ（トンマル）



暖地の海岸沿いに多い。耐潮性が強く、地下に海水が侵入するような土地でも育つ。

樹高は30mにもなる。大きく育つことから船を作るのに使われてきた。線香の原料としても使用される。

- トバ』第3回：9/30(金)  
・沖縄大学「市民社会とボランティア」：11/9(水)  
●団体受入  
東海大学付属大阪仰星高等学校 中等部：6/21(火)、トヨタソーシャルフェス：7/9(土), 11/5(土), NECソリューションイノベータ株式会社：9/23(金)、横浜市立桜丘高校：10/5(水)、京都府立日吉ヶ丘高校：10/11(火)、横浜清風高校：10/18(火)、静岡サレジオ高校：10/26(水)、愛知真和学園大成高校：10/27(木)、雲雀丘学園中学：11/1(火)、東京女子学院高校：11/17(木)  
●第7回おきなわ水環境セミナー：

- 11/19(土)  
●イベント出展  
・おきなわ国際協力・交流フェスティバル 2022：10/29(土)  
・エコライフ&ネイチャーフェア 2022(令和4年度県民環境フェア)：11/12(土)  
・サイエンステックキャラバンin宮古島：11/20(日)  
●八重瀬町・琉球大学 JST SOLVE for SDGs プロジェクト：サマースクール 8/6(土), 8/7(日), 8/27(土), 8/28(日)  
【国際協力】受託事業  
・JICA研修員受入事業：課題別研修（遠隔研修）「持続可能な観光資源・開発（自然資源）(B)」：10/11(火)～11/24(木)

- 埼玉県立越ヶ谷高校：12/4(日)、藤沢翔陵高校：3/5(日)、王寺町立王寺北義務教育学校：5/18(木)  
●第8回おきなわ水環境セミナー：12/2(金)

- 【国際協力】受託事業  
・JICA研修員受入事業：日系社会研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」：1/12(木)～2/9(木)

## お知らせ 会員・ボランティア募集

- ・入会申し込みはホームページから
- ・緑化活動をお手伝いしてくださるボランティアを随時募集しております。お気軽にお問い合わせください。

### アキノワスレグサ（クワンソウ）



秋に花をつける。  
中国原産だが、沖縄では昔から食材として花や葉、根を利用し、おひたしやみそ汁などに、また睡眠改善の薬草としても利用してきた。最近では葉を健康茶として加工し、販売されている。

## 達人デリバリー（出前講座） ミライヘ・プロジェクト（団体受入）

TEL 098-833-9493  
メール gyomu@npo-oec.com



### 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ



〒902-0075

沖縄県那覇市字国場 370 番地 307 号室

TEL 098-833-9493

FAX 098-833-9473

ホームページ

npo-oec.com

e-mail kokuba@npo-oec.com

SNS:



facebook



Instagram



～自然と環境の保全は足元から！～  
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ（OEC）

Vol. 39

2022年12月発行

## トピック① 大学との連携

OECは、自然環境の価値や暮らしとのつながりを感じる機会を皆さんに提供し、身近な環境を大切にして行動する心をそだてるために活動している。活動は「楽しく学ぶ」ことをモットーとしているので、対象者の皆さんにとってどんなことをしたら楽しいかといつも考え、実践している。

しかし、学ぶ内容が確かであることも大切であり、これが自前の人材だけでは少し難しい。そのような時に強力な助っ人となってくれるのが、大学の先生方である。先生方にとってみれば、専門的な知識を社会に生かすことができるため、連携のメリットはある。

2020年度から連携している琉球大学JST SOLVE for SDGsプロジェクト（八重瀬町）の活動では、水環境や地質、海洋微生物学、サンゴ礁生態学が専門の先生方から提供いただく専門知識をどのように

伝えたら小中学生の皆さんに楽しく学んでいただけることができるか、頭をひねった。しかし、その中で最も楽しかったことは私たち自身が学ぶ機会をいただけたことだった。

専門の方々とのつながりから自身も学びの楽しみを得つつ、より多くの皆さんに楽しく学んでいただけるように精進していきたい。

（事務局長 立田亜由美）



SOLVEみずのわサマースクールの様子

## 目次

- [1面]
  - ・大学との連携
  - ・3年ぶりのサガリバナ観賞会
- [2面]
  - ・国場川ごみゼロ作戦
  - ・イベント出展再開
  - ・JICA遠隔研修
- [3面]
  - ・マングローブのつぶやき
  - ・TOYOTA SOCIAL FES!!2022
  - ・修学旅行受入
- [4面]
  - ・活動実績
  - ・活動予定
  - ・アルバム：新しい植栽植物
  - ・お知らせ



アキノワスレグサ  
方言名：クワンソウ  
ワスレグサ科  
中国原産。沖縄では睡眠改善の健康茶などで利用されています。

## トピック② 3年ぶりのサガリバナ観賞会

OECの看板イベントともいえるものの、コロナの影響で2019年度以来開催できていなかったサガリバナ観賞会。今年は規模を縮小し、6月24日(金)に国場集落と7月10日(日)、11日(月)に末吉公園でようやく開催

することができた。国場集落では定員を15名以内とし、末吉公園では飲食店舗の出展を控えた。

国場集落のガイドツアーには、現在するサガリバナを辿りながら夜のお散歩を楽しむ醍醐味がある。ガイドによる集落の歴史や文化の解説も

魅力だ。

末吉公園では県内外からたくさんの人が訪れ、美しい月灯りの下東屋や公園の歩道沿いに座ったりしながらゆっくりと光に映るサガリバナを楽しんでいただいた。サガリバナをきっかけに新しい交流が生まれるのも嬉しいことである。

今回、首里崎山町では観賞会の開催を見送ったが、来年には通常の規模に戻してサガリバナの季節を皆さんとともに迎えることができたらと思う。来年もぜひお楽しみに。

（研究員 金城明子）



末吉公園のサガリバナ観賞会



2日間で約400名に来ていただいた

## トピック③ 国場川ごみゼロ作戦



NECソリューションイノベータ(株)の皆さん。お疲れさまでした！

国場川ごみゼロ作戦では、8月1日（月）に那覇市にあるアカンミキッズクラブを訪問して教材体験を行ったほか、9月23日（金・祝）にNECソリューションイノベータ(株)（以下、NEC）の皆さんと一緒に古波蔵地区の漫湖河岸でごみ調査とクリーンアップ活動を実施した。

NEC様には例年末吉公園でのサガリバナとホタルの観察を体験いただいたが、今年は「ワールドクリー

## トピック④ イベント出展再開

この秋は、JICA沖縄主催「おきなわ国際協力・交流フェスティバル（以下、JICAフェス）」や県主催「エコライフ＆ネイチャーフェア」がリアル開催され、OECもブース出展をした。

10月29日（土）に開催された今年のJICAフェスは第7回世界のウチナーンチュ大会との関連イベントであったため、OECではJICA日系研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」の帰国研修員たちからビデオ



上手にできたね♪

のご協力のおかげで、課題であった北岸での清掃活動が無事に実施できたと、スタッフ一同喜んでいます。

国場川ごみゼロ作戦では、教室での教材体験と野外での体験学習の両方を行っている。今回の活動をきっかけに北岸での清掃活動体験もメニューに加え、引き続き国場川流域の散乱ごみ削減を目指して環境学習に取り組んでいく。

活動に関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

（研究員 金城明子）

## マングローブのつぶやき その21 スケープゴートのヒルギダマシ

沖縄のマングローブ、特にヒルギダマシは水環境破壊のスケープゴートにされる。その代表例が中城湾岸のヒルギダマシで、「害樹」として湾内から完全に除去された（写真1）。うるま市州崎マングローブテラスや南城市佐敷干潟でも、希少種トカゲハゼの生息障害になるとして完全に除去された。

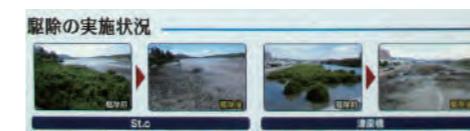


写真1. 中城湾港の看板より

しかし、ここのトカゲハゼの生息域はマングローブより先のごく狭い砂泥地に限られており、中城湾からは除去後もその数が減り続いている。この事例は、マングローブ生態系への認識不足から生じたと思われる。

世界では、ヒルギダマシは家畜の飼料や薪、ミツバチ蜜源などとして最も利用されているマングローブである。同種は耐寒と耐塩性に優れ、熱帯・亜熱帯地域に広く分布し、日本では宮古島が世界の植物地理的な分布の北限に近い。

宮古島のヒルギダマシは、島尻と与那覇湾に小さなコロニーがあったが、埋め立てで枯死、消失して島尻だけに残った（写真2）。しかし今、島尻のヒルギダマシもヤエヤマヒルギやオヒルギなど



写真2. ヒルギダマシの枯死

（会長 下地邦輝）



写真3. 2011年のヒルギダマシの移植

## 報告② TOYOTA SOCIAL FES!!

「未来に残そう沖縄の自然」をテーマに開催したTOYOTA SOCIAL FES!!2022。3年ぶりの開催となった今年は、7月9日（土）に末吉公園で「サガリバナとホタル観察のタベ」を、11月5日（土）に漫湖水鳥・湿地センターと漫湖南岸で「街なかマングローブで環境を学び、自然について考えよう！」を開催し、約160名の皆さんに参加いただいた。

それぞれの場所で見られる動植



TOYOTA SOCIAL FES!!2022 参加者の皆さん（上写真：7月、下写真：11月）

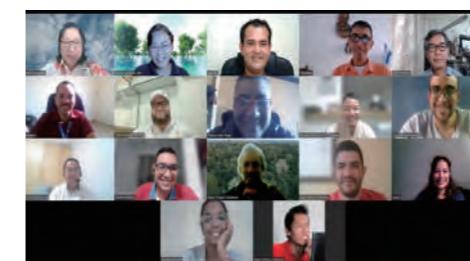
## 報告① JICA 遠隔研修「観光資源 B」

コロナの影響で2020年から実施している遠隔研修もそろそろ一区切りつきそうである。10月11日（火）から11月24日（木）の6週間半、今年から始まったJICA課題別遠隔研修「持続可能な観光資源管理・開発（資源）（B）」コースを、中南米の11か国11名を対象に実施した。

今回は講義やディスカッションなどでライブ枠を充実させ、一体感の感じられるコースづくり

を心がけた。研修員も大変熱心に集中して取り組んでくれて感謝している。

（事務局長 立田亞由美）



中南米の研修員11名とJICA、OEC関係者

グラムを提供していただきたい。

（研究員 高嶺正満）



修学旅行受入の様子@末吉公園